

平成29年度離島漁業再生支援交付金取組概要

平成30年5月9日

1. 対象漁業集落の概要

都道府県名：沖縄県

市町村名：渡名喜村

島名：渡名喜

協定対象漁業集落名：渡名喜村渡名喜漁業集落

協定参加世帯数：62世帯（67人）

（うち漁業世帯数：62世帯（67人））

2. 協定締結の経緯

渡名喜村の海域は、良好な自然環境を有しており、渡名喜村の漁業者にとって貴重な漁場であり、渡名喜村の漁業者がこれらの海域環境を適切に管理し、これを保全するとともに周辺水域の有効利用を図ってきた。しかしながら漁業が期間産業である渡名喜村においても、漁業者の減少や高齢化が進んでおり、このまま放置すれば一層衰退し、水産業・漁村における多面的機能も失われていく懸念がある。

このため、漁業の基盤となる漁場の保全や利用に関する話し合いを通じて、種苗放流、漁場監視、サメ駆除やオニヒトデ駆除、新規養殖業への着業、高付加価値化、体験漁業の取組、アオサ養殖の活動を継続的に実施することや新規漁業就業者の確保・定着を図る必要があることから、その取組の継続を下支えするために離島漁業再生支援交付金にて取組むこととした。

3. 取組の内容

① 漁場の生産力の向上に関する取組状況

種苗放流：地域全体で温暖化の影響や餌となる海藻の減少に伴い資源が低下しているウニの種苗放流を実施して0個（平成26年度実績）から5,000個（平成31年度）まで資源の回復、増加を図ることとした。



(別紙2)

漁場監視：渡名喜村設置のパヤオをはじめ、漁協組合又は、漁業集落が設置したパヤオ等付近で操業している不審船や渡名喜周辺海域において密漁者を発見した場合は、写真、船番を控え、関係機関に連絡する。

また、漁場環境保全として、流木等の漂流物の監視を行う。



その他（サメ駆除）：操業時において、サメの漁獲物の横取りや、漁具被害が多く発生している状態であるため、サメ駆除を実施し漁獲高向上を図る。



その他（オニヒトデ駆除）：渡名喜周辺（リーフ内）でオニヒトデが発生し、サンゴを食い荒らし大きな被害を被っている為、オニヒトデを駆除し、サンゴの復活を図り、魚の産卵場の保全を図る。



(別紙2)

②漁業の再生に関する実践的な取組状況

新規養殖業への着業（シャコ貝の養殖）：新規養殖業を着業し、シャコ貝の生産量0.1t（平成27年度）から0.2t（平成31年度）増加させる事を目的とし、専用カゴ（1.2m×1.0m×0.6m）を、共同漁業権内（特区257号）の海底に固定し、シャコ貝を養殖する。また養殖したシャコ貝の販路開拓を行う。



新規養殖業への着業（ヒトエグサの養殖）：冬場、季節風時に漁に出ることが出来なくなる漁家の所得が減る事からヒトエグサ養殖を実施することにより、冬場の現金収入増を図ることにより漁家の所得向上を図る。



交付加価値化：セリ値の安い魚を一部買取り、高付加価値化（燻製・干物等）の商品開発を行い、島内販売や離島フェアなどにて販路拡大を図る



(別紙2)

体験漁業への取組：後継者育成の一環として、リーフ内における追い込み漁や船釣体験等を地元生徒等を実施し、漁業の大切さを実感してもらうとともに、体験漁業のノウハウをもとに、漁業就業者の増加及び体験漁業の観光商品化を図ると共に関係機関と話し合い、観光漁業の導入を検討する。

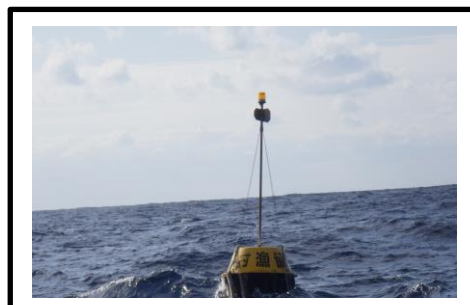


#### 4. 取組の成果

種苗放流：ウニの資源回復を図り、29年度もシラヒゲウニを4,000個放流した、今現在ウニの育成期間を考慮し、1年を通して禁漁期間としているため、成果が出始めるには長い期間が必要となる。



漁場監視：村が設置したパヤオ付近での違法操業の監視や島の周辺海域で違法操業している漁船の監視を実施した結果、以前は頻繁に不審船が確認されたが、最近では減少している。





(別紙2)

その他(サメ駆除)：渡名喜島の西側海域はカツオやマグロ、ハタやマチ類の好漁場である。これまで1本釣りや引き縄漁時の被害が減り漁獲高も増えている。サメを25匹駆除した。

また、村内外から駆除されたサメを見学に来る人も増えて、PR的にも効果が出てきている。



オニヒトデ駆除：島周辺海域では、オニヒトデが異常発生し、サンゴへの被害が懸念され続けている為、毎年継続して駆除したことでオニヒトデが減少してきている。

平成29年度は30匹駆除した。



新規養殖業への着業(ヒレナシジャコ)：平成29年度はヒレナシジャコ稚貝を450個購入し養殖、大きくなったヒレナシジャコを収穫し、塩辛を作り例年のように渡名喜まつり、離島フェア等にて展示即売し、完売した。



(別紙2)

新規養殖業への着業（ヒトエグサ）：漁業者の冬場の漁家経営の安定化を図る上で29年度もヒトエグサの養殖に取り組み、アーサ網を30枚張替え及び網洗い作業等を行なったが、29年度は成長が悪くまた、違う種類の藻が付着して思うような成果が上げられなかった。



交付加価値化：新規養殖業で収穫したシャコ貝や、魚価の価格が安く、出荷の厳しい雑魚等を地元漁業者から安価で買取り、水産加工品として付加価値を付け、地元のイベントや離島フェアへ参加し、展示即売会を行った所大盛況で完売した。



体験漁業：後継者育成の一環として、リーフ内における追い込み漁を島の小学校5年生から中学3年生を中心に実施し、沢山の魚等を獲得し、製造作業まで行った。

